



東龍門完成 (4頁に説明文を掲載しました)

# 寺報

発行者  
 廣見寺  
 秩父市下宮地町 25-29  
 TEL.22-4021  
 FAX.23-5077

## 住職随想

### 早や十年か 未だ十年か

あの日から、早や十年半が過ぎようとしています。被災者でない私は、つい「早や」と書いてしまいました。被災地の人々にとっては「未だ」十年の気持ちであると思います。先月十八日から、八十四人の犠牲者を出した石巻市大川小学校が、震災遺構として整備されて公開されたという事です。唯、遺族の中には、複雑な思いを抱いている方もいるのではないのでしょうか。

震災一年後、NHKの事業として、被災地を支援する名曲「花は咲く」が創られました。作詩、作曲の方は勿論ですが、この事業に携わった人々の願いが込められていて、癒やされたり、勇気をもらった人も少なくないのではないのでしょうか。私もその一人です。今年になって、ふと無意識に歌っている歌詩の難しさに気が付きました。それは、この歌は被災した人々に対する支援の詩ですが、犠牲者の存在をどのように取り扱うかを抜きにして、作詩できないかと思っただけです。私積ではありませんが、結論からいえば「あのだす黒い波にのまれてしまったけれど、自分のことをいといかなしむ姿を見て、すべてを受け入れて仏になっているよ」と作者は言いたかったのではないかと解釈しました。詩の中に、

誰かの歌が聞こえる 誰かを励まして  
 誰かの笑顔が見える 悲しみの向こう側に

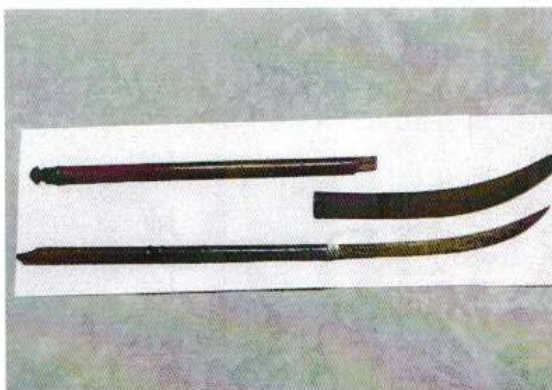
というフレーズがありますが、誰かとは犠牲者であると思いましたが、この説に異論があるかもしれません。たぶん、作詩をされた方も相当に悩み、思索を深め、精進潔斎(仏教的に言う)として創ったものと考えます。そして、最後の言葉に「私は何を残しただろう」と書き、自分に十字架(キリスト教的に言う)を背負わせ、一生関わっていく誓いの言葉にしたのだと思います。

被災地にとつては、未だ十年しか経っていません。堤防や道路が整備されても、未だ心の中に空いた穴を埋める事ができず、苦しみが残っている方が沢山います。被災地の外にいる私達は、何もすることはできませんが、心だけは馳せていかなければならないのではないのでしょうか。



長刀発見

昨年十一月、大書院裏の客間「紫雲台」を掃除していたところ、天袋の奥から、柄が折れている長刀が発見されました。当寺の明和七年（一七七〇）の備品帳に「長刀 志振」と登録されていました。刀剣類は警察に届出しなければならぬので秩父警察に連絡すると、埼玉県教育委員会文化資源課が行っている登録審査会へ行くようにいわれ、三月十九日県庁に行つて登録許可証を得てきました。審査官の方が、無銘ではあるが、室町時代のものかと言っていました。本堂の展示棚に展示しますので、ご覧下さい。



華鬘寺推進

虹寺の五番目に華鬘寺があります。華鬘とは、インドの言葉で花の首飾りの事です。廣見寺は、境内に四季折々の花が咲く寺を目指しています。



桔梗



蓮



あじさい

大書院南側坪庭造成

現在、裏庭をはじめ境内の整備を進めています。大書院南側に一坪ほどの空地があり、雑草が生えて、見苦しい状態であったので、即席の坪庭を作りました。石も燈籠も化粧砂利もすべて寺に在る物を使って造成しましたので、費用はほとんど掛かりませんでした。その為、鑑賞に値するかは疑問符です。唯、コロナ禍の中、戸を開け放す時が多くなるので、一服の清涼剤になればと思ひ作庭しました。寺にお越しの際は、是非ご覧下さい。



東龍門について

昨年の西龍門に続き、表紙で紹介した東龍門が完成しました。当寺鎮守妙見菩薩の化身が龍であることから東龍門と名付けました。これまでは、夜でも境内を通り抜けることができたのですが、防犯の観点からできなくなりました。

左の門柱に「秩父虹寺」と刻み入れました。何人かの人に虹寺って何ですかと聞かれましたので、説明したいと思ひます。寺報61号にて「秩父虹寺宣言」をしました。しかし、なかなか浸透していないのが現実です。虹寺とは、「七色の名前を持つ寺」という意味で、廣見寺の固有性を七つにまとめたものです。その七つの名前は、①秩父曹洞宗発祥寺②秩父鬼門寺③秩父妙見寺④秩父曼荼羅寺⑤秩父華鬘寺⑥秩父石経寺⑦秩父願い石寺の七つです。それぞれの意味があるのですが、割愛します。詳しく知りたい方は、寺報61号かホームページを御覧下さい。有難いかな、廣見寺の歴史は、秩父の歴史と言つても過言ない存在です。歴史を知り、その中に生きてきた人々を知る事が郷土愛、菩提寺愛につながるものと考えます。